

【評価実施概要】

事業所番号	第0170501993		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	〒003-0834 札幌市白石区北郷4条12丁目3-35 (電話) 011-879-5580		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B (電話) 011-281-5871		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】(H22年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 14.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	12,000~17,000 円	
敷金	有 (195,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	6名		
要介護5	8名	要支援2	0名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり内科クリニック とくしま歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街に位置し、周囲には小学校、公園があり環境に恵まれている。ホームの建物は広く明るく安全に配慮して造られている。2ユニットで構成され介護度で1・2階に分けている。職員は「法人理念」のもと、質の高いサービスを行ない、内部、外部研修に励み日々研鑽している。法人グループホームが他に2ヶ所あり、互いに連携協力を図ることができる。家族のホームへの信頼は厚く、利用者の表情は明るい。1階ユニットは、職員数を規定以上配置し、ターミナルケアを行なっている。終末期迄の支援ができる体制を整えている。適切な医療と心のこもった介護を受けながら、安心して暮らすことができ、これからも期待できるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題であった災害対策は運営推進会議で話し合い、消防署指導の下、地域住民の協力参加で夜間も想定した避難訓練を実施している。今後とも地域と一体となった防災体制作りが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員1人ひとりが参加して行ない、全員で話し合い検討して作成している。外部評価の結果を踏まえて具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度ホームで開催され、記録されている。地域包括センター職員、利用者家族、地域代表、地域住民、ホーム職員等が参加して行ない、ホーム運営や行事報告、防災訓練、災害時に於ける近隣住民協力体制等について話し合われている。会議で討議された内容はホーム運営やサービス向上に具体的に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に1度家族に便りを送付し、ホームでの暮らしぶりや金銭管理について報告している。個人別の「家族連絡ノート」を活用してホームに気軽に意見、要望を伝えることができる。家族の会が催され、親睦と意見交換を行っている。意見箱の設置や外部への苦情相談窓口を明示しており、運営推進会議では家族の意見を伺い、ホーム運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、夏祭りや地域会館で行なわれる餅つき大会等に参加している。日頃からお花をいただいたり、挨拶を交わすなどの自然な交流があり、災害訓練では近隣住民の参加協力を得ている。地域の人々からの認知症介護や福祉についての相談を受けており、地域に信頼され期待されている。

## 2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し「1人を大切に・支え合う心・安心して暮らせる社会」を法人理念として策定し地域の中でその人らしく暮らせるように行なっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は額に入れて掲示し周知を図っている。日々のミーティングやカンファレンスで理念を掘り下げ一人ひとりの具体的ケアについて話し合いを行い実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭り等の町内会行事にはできるだけ参加するよう努めている。日頃から挨拶したりお花をいただいたり自然な交流があり、防災訓練は地域の人々の協力を得て行なわれている。地域の人々から認知症介護についての相談を受けることがあり、専門的立場から適切な助言をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価実施の意義を理解している。自己評価は職員全員が参加して作成している。評価は日頃のサービスの振り返りの機会と捉えており、外部評価結果を踏まえて具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月ごとと定期的開催され、記録している。地域包括支援センター職員、地域代表、地域住民、家族、職員等が参加し、ホーム運営や行事、防災訓練、災害時に於ける近隣住民の協力体制等について話し合われている。会議で討議された内容は、サービスの向上に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市主催のグループホーム管理者会議や研修に積極的に参加し、行政方針の理解に努めている。必要時には随時連絡を取りながら情報交換しており、行政と共にサービスの質の向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時には、日頃の暮らしぶりやケアプラン等について報告している。毎月手紙を送り一人ひとりの健康状態や金銭報告を行ない、確認をとっている。ユニット便りを送付してホーム行事や職員異動についてを報告しており、電話による連絡も随時行なわれている。個人別「家族連絡ノート」は職員と家族との連絡に活用されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「意見箱」を設置し、外部への苦情相談窓口を明示している。「家族連絡ノート」の活用や家族来訪時の面談で意向を伺っている。「家族の会」が年に3~4回開かれ、ホームとの意見交換や交流の場となっている。運営推進会議での家族の意見はホーム運営に反映されるよう行なっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動は法人内部で行なわれることが多い。異動時期を検討・調整し、利用者のダメージを抑えるよう努めている。異動が予定される場合は家族等にも報告するよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修や外部研修の参加は積極的に行なっている。参加後は報告会で研修内容の共有を図っている。また職員1人ひとりと管理者が話し合い、経験や段階に応じた年間の研修計画を立て実施している。働きながらの資格取得についても進めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区の管理者連絡会議に出席し、情報交換を行っている。全国組織のネットワークを築いており、相互間の見学、研修等共同で実施している。法人代表は道グループホーム協議会の要職にあり、管理者も区内の在宅ケア連絡会役員をするなど積極的に交流を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前に利用者や家族と面談し、要望や状態の把握に努めている。ホーム訪問や行事参加等でホームの雰囲気を知っていただき、徐々に馴染めるように工夫し、本人が納得したうえで入居するように配慮している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に生活する中で喜びや哀しみの思いを共有している。利用者が今迄培ってきた知恵や経験を尊重し、人生の先輩として尊敬の念をもち、互いに学び合い、支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>共に暮らしている中で言葉や表情、行動から個々の思いや希望の把握に努めている。把握困難な場合は家族の意見や関係者から情報を得るように努め、本人の意向を大切に本人本位に検討している。</p>		
<p><b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各人に沿った個別具体的な介護計画を作成している。どのように暮らしたいか利用者、家族の意見を聴き、関係者を含め職員全員で意見交換し介護支援専門員の適切な管理のもとに利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごと定期的に見直しを行なっている。介護計画と現状にずれが生じた場合は医師や看護師、関係者と話し合い、全職員で検討し、常に現状に即した計画を作成している。介護計画は家族の同意を得るよう行なっている。</p>		
<p><b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況に応じ、病院への通院支援を行なっている。結婚式、葬儀への付き添い、外出など状況に応じ柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>日常健康管理は、提携医師による月2回の訪問診療とホーム看護師によりなされている。提携医とは24時間体制で連絡対応ができる体制を整えている。利用者希望の専門医等については連絡や通院支援を行ない、常に適切な医療が受けられるように支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化や終末期に向けた方針について利用者、家族と話し合い、書類で確認をとっている。状態の変化に伴い家族、医師、看護師、職員、関係者と検討し全員で方針を共有し確認している。家族と共に安らかな終末を迎えられるよう医師、看護師対応のもと看取りを行なっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は日頃から利用者の尊厳を大切にしており、一人ひとりの誇りを損なわないように言葉かけや動作に配慮している。個人情報記載の書類は各ユニットで管理収納している。情報管理は適切に行なわれている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームとしての基本的な流れはあるが一人ひとりの意向やペースに合わせて、体調に配慮しながら個別性のある支援を行なっている。買い物、散歩、ドライブ、入浴等希望に沿って柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階ユニットでは箸やスプーンを自力で食べられるように工夫し、食べる楽しみの継続を図っている。2階ユニットでは食事の準備や後片付けをできる範囲で職員と共に行なっている。利用者同士の座席の工夫や、食事環境整備に配慮している。職員と利用者は共に食卓を囲み、食事が1日の楽しみとなるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2度の入浴日を決めているが、バイタルチェックを行い、一人ひとりの希望やペースに合わせて入浴している。ADLの低下に伴い1人の利用者に2人の職員で介助することもあり、安全に配慮して行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や持てる力を考慮して、一人ひとりが張り合いのある生活ができるよう場面作りに配慮している。食事の下ごしらえ、毛筆による献立表作成、掃除などの役割と、百人一首、カラオケ、音楽鑑賞等があり、季節毎のホーム行事も楽しみとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの心身の状況に応じて外出支援をしている。散歩、買い物、ドライブ等希望に沿って行い、できるだけ戸外の空気に触れるようにしている。歩行困難な利用者には、車椅子を利用して外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な雰囲気環境を保持する為、日中玄関に鍵はかけていない。入り口ドアにチャイムを設置して、出入りを察知できるように工夫し、利用者の動きを見守りながら安全面に配慮して行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと、年2回避難訓練を実施している。2ユニットの協力体制で利用者と共に夜間をも想定し、利用者、近隣住民参加協力のもと実施している。マニュアルを整備し、火災受信機、煙探知機、非常灯、消火器等の確認を行なっている。なお、火災通報装置は平成22年度早々に設置することにしている。		運営推進会議などにおいての話し合いで、近隣との協力関係が効果をあげているので、組織を通じてホームレベルから地域の防災を発信して下さるよう望みます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分、食事摂取量を記録し必要量の確認を行い、周知を図っている。美味しくいただけるように、また、経口摂取が続けられるように味付けや食事形態に工夫し支援している。個々の状態に応じた食事指導が医師によりなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館明るく清潔である。リビング横の和室には季節の置物が飾られ、ゆったりとした穏やかな雰囲気である。各所に手摺が設置され、玄関以外にも非常出口があり安全に配慮された造りとなっている。車椅子は木製を使用する等家庭的な雰囲気に配慮している。採光、温度、湿度、換気の管理も適切である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や仏壇、人形、鏡台等が持ち込まれ、家族の写真や利用者の作品の書画等が飾られている。収納箇所もあり程良く整頓されており、個々の状態に合わせ居心地よく過ごせるように工夫している。		

 は、重点項目。